

藤井寺市発掘調査概報 第2号

2009年12月
藤井寺市教育委員会

林遺跡（HY2009-2区）

位置と環境

調査区は、林遺跡の南西部にあたる。南東約150mには、仲津山古墳、古室山古墳が存在する。また、これらの古墳の北側には市野山古墳、南側には大鳥塚古墳、養田御廟山古墳がある。調査区は、古墳時代にこのような大型の前方後円墳が築かれた国府台地の西側斜面を下った沖積段丘上に位置しており、周辺の地形は北西方向に緩やかに下降している。

周辺の既往の調査としては、西に接する地点のHY97-5区がある。この調査では、古墳時代の掘り込みを検出し、埴輪が出土している。古代の掘立柱建物も確認された。北西約75mのHY95-6区では古代の造構を確認しており、また、埴輪片が集中して出土している。北東約110mのHY96-1区では埴輪片と拳大の石が出土する掘り込みを検出しており、埋没古墳の周濠の可能性を指摘している。

林遺跡では、これまでにも多くの埋没古墳が見付かっており、林古墳群と総称されている。上記の調査の古墳時代の造構や埴輪片は、この林古墳群と関連付けて考えなければならない。また、古代の造構については、古代集落の展開を視野に入れて検討する必要がある。

調査の経過

宅地造成に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出されたため、協議を行い、申請者の依頼を受けて、道路建設部分にトレンチを設定して調査を実施した。調査面積は約220m²である。

調査区の現状のレベルはT.P.18.0m程度である。もとは宅地として使用されていた。このため、全体的に現代の盛土及び攪乱（第1層）が認められる。トレンチ内では、第1層を除去すると、西端から約17mまでは黄灰色粗砂（第24層）、灰色細砂（第2層）が認められ、旧耕土である黒灰色細砂（第25層）も一部に残存している。しかし、それよりも東側では、一部に灰色細砂（第2層）や茶灰色細砂（第3層）、黄灰色粗砂が少量混じる淡黒灰色細砂（第4層）が認められるものの、第1層を除去するとすぐに地山である1~3cmの礫を含む黄灰色細砂（第27層）があらわれることを基本とする。



図1 トレンチ位置図 (S=1:1,000)

調査の成果

遺構の検出は、すべて地山上面で行った。掘立柱建物7棟、柵列1列がある。

掘立柱建物については、SB03とSB04は、柱掘方の埋土より瓦器片が出土した。このことから、この2棟の建築時期は中世に求められる。

SB05についても、柱掘方の埋土より中世の所産である土師器皿の破片が出土した。このことから、この建物の建築時期も中世に求められる。

SB01とSB02については、柱掘方の埋土より黒色土器A類と思われる破片が出土した。このことから、この2棟の建築時期は古代に求められる。

SA01、SB06・07については、柱掘方の埋土より土師器と須恵器の破片は出土しているが、明確に時期の分かれるものは認められない。しかし、瓦器の破片が出土しないことを消極的根拠とすると、この2棟の建物も古代の建築である可能性が高い。なお、SB06のP196には、柱に使用された木材の一部が残存していた（写真6）。

古代の掘立柱建物の内、SB06とSB07は柱列の角度がほぼ同じで平行しているようである。このことから、この2棟はほぼ同時期に建築された可能性がある。SA01とSB01・02は、SB06・07とは柱列の角度が異なる。また、SB01とSB02は重複しており、この2棟は建築時期の異なることが明らかである。しかし、その前後関係については不明である。

以上の建物や柵列として復原できる柱穴の他にもピットを検出している。これらは、その大半が古代から中世にかけての所産であると思われる。

その他に、特にトレンチ東半部において、平面形態が円形や椭円形の掘り込みを多く検出している。これらは、出土遺物などから、いずれも近世以降の所産であることが分かる。

小結

今回の調査では、掘立柱建物7棟と柵列1列を確認した。これらは古代から中世にかけて建築されたものと考えられる。周辺で古代や中世の集落関連施設を確認した調査は、先に述べたHY97-5区の他に、北北東に約300mのHY94-4区が挙げられる。HY94-4区では、古代の掘立柱建物、溝、中世の溝、土壤、柱穴などを確認している。これらはいずれも沖積段丘上に位置している。今回の調査成果と合わせて、古墳時代に大型前方後円墳が築かれた国府台地の西側斜面を下った沖積段丘上では、古代から中世にかけて集落が展開していたことが明らかになってきている。今後の調査では、集落の展開する範囲と時期に留意する必要があろう。

また、調査区周辺が古墳時代に林古墳群の展開する地域であることはすでに述べたとおりであるが、今回の調査では古墳に関係のある遺構、遺物は確認できなかった。古代集落が形成される際に既存の林古墳群がどのような状態になっていたのか、換言すれば、古代にこの地域に集落を形成した人々は林古墳群をどのような認識していたのかということは、調査成果をもとに検討すべき課題である。（新聞）

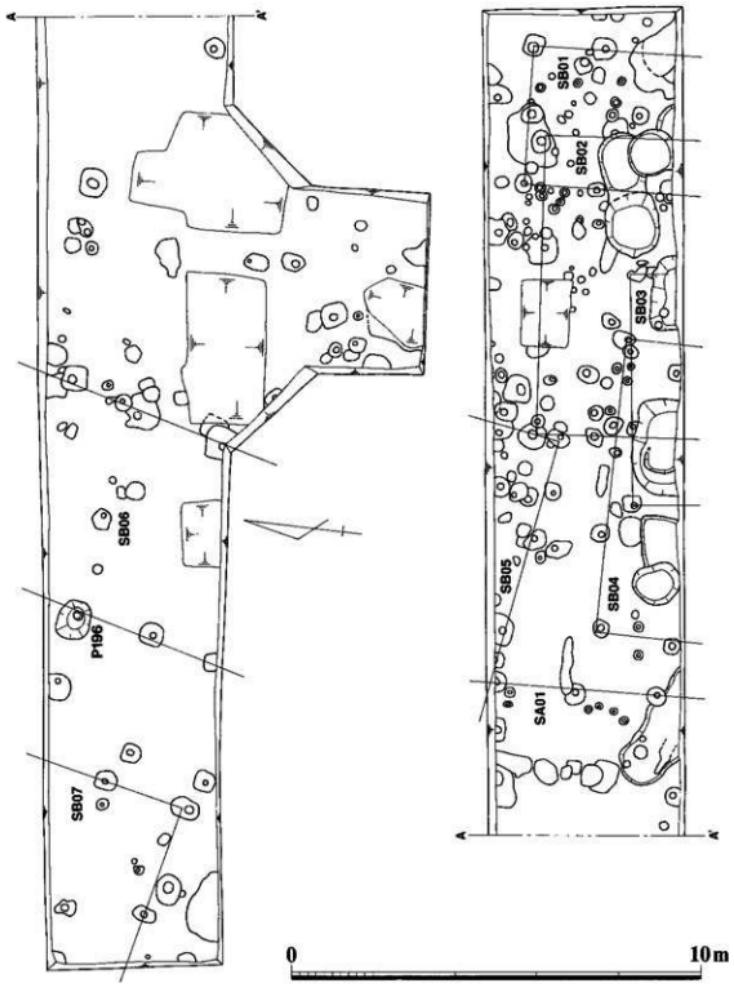


図2 造構平面図

参考文献

- 新聞義夫 1996 「第9章 林遺跡の調査 1. HY95-6区」『石川流域遺跡群発掘調査報告書』藤井寺市教育委員会
- 山田幸弘 1996 「第9章 林遺跡の調査 2. HY94-4区」『石川流域遺跡群発掘調査報告書』藤井寺市教育委員会
- 新聞義夫 1997 「第8章 林遺跡の調査 2. HY96-1区」『石川流域遺跡群発掘調査報告書XII』藤井寺市教育委員会
- 上田睦 2001 「第6章 林遺跡の調査 1. HY97-5区」『石川流域遺跡群発掘調査報告書XVI』藤井寺市教育委員会

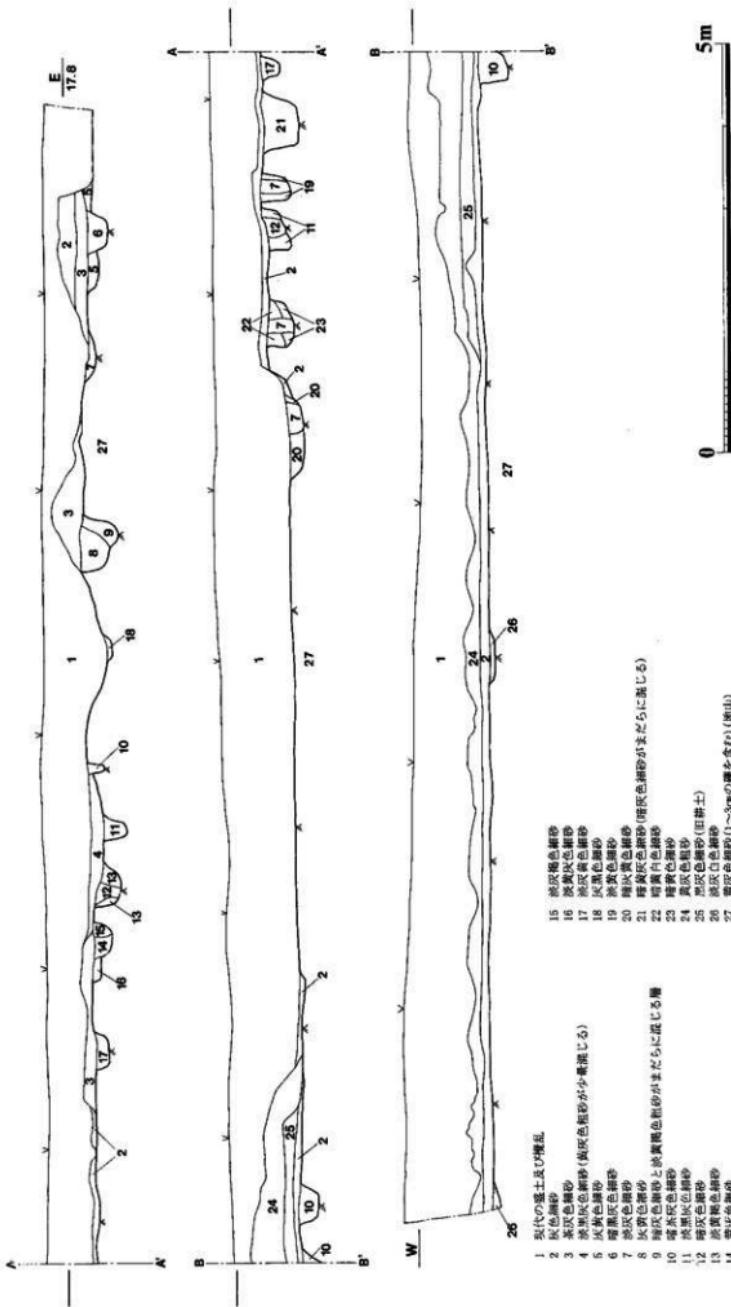


図3 トレンチ断面図

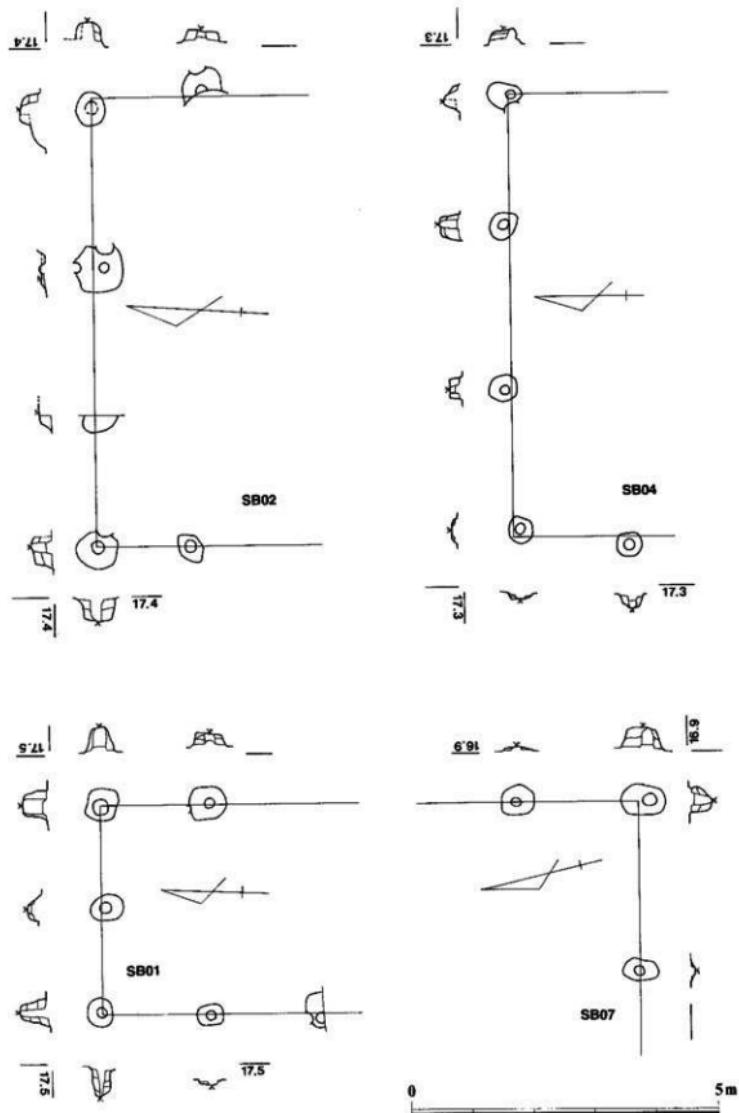


図4 SB01・02・04・07 平面・断面図

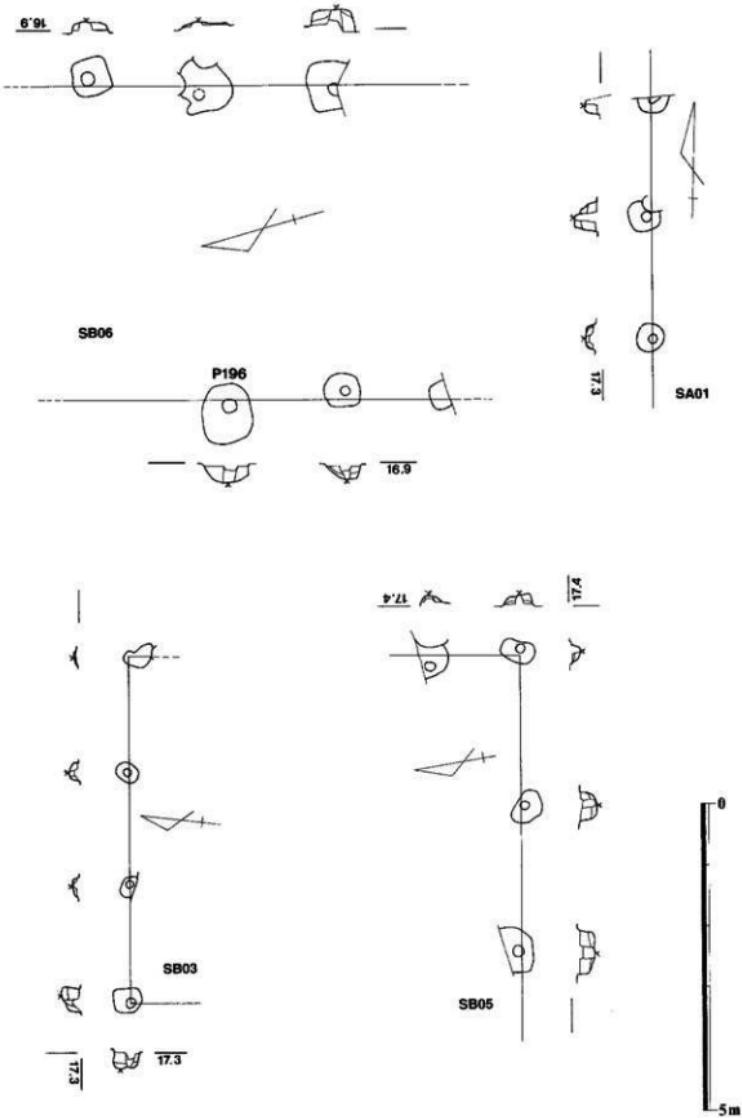


図5 SA01、SB03・05・06 平面・断面図



写真1 全景（東より）



写真3 トレンチ東部分（西より）



写真4 トレンチ中央部分（北より）



写真2 全景（西より）



写真5 トレンチ西部部分（東より）



写真6 P196 木材出土状況（南より）



写真7 周辺の状況（西より、後方は仲津山古墳）

例 言

- 本書は、宅地造成に伴い2009年度に実施した、林遺跡（HY2009-2区）本発掘調査の概要報告書である。調査地は、藤井寺市古室1丁目493-2、494-1、495-1、-2の各一部に所在する。
- 調査は、申請者の依頼を受け、藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課が実施した。期間は、現地調査（外業）2009年8月18日～9月9日、整理作業（内業）2009年9月24日～12月4日である。
- 本書の作成は新開義夫が行い、木本泰、寺崎理恵、深尾まき子が参加した。遺構写真の撮影は新聞が行った。
- 図面の方針は、特に断りのない限り座標北を使用した。標高はT.P.を用いた。トレンチ位置図は、上を座標北とした。

報告書抄録

ふりがな 書名	はやしいせき 林遺跡					
副書名	HY2009-2区					
シリーズ名	藤井寺市発掘調査概報					
シリーズ番号	第2号					
編著者名	新開義夫					
編集機関	藤井寺市教育委員会					
所在地	〒583-8583 大阪府藤井寺市岡1丁目1番1号 TEL 072-939-1111 (代)					
発行年月日	西暦2009年12月28日					

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査面積 m ²	調査機関	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はやしいせき 林遺跡	おおさか市 大阪府 ふじいでらし 藤井寺市 こわろ 古室	27226				220	現地調査 (外業) 2009年 8月18日 ～9月9日 (内業) 2009年 9月24日～ 12月4日	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
林遺跡	集落跡	古代 中世	掘立柱建物、ピット		土師器、須恵器 土師器、瓦器			